

2011年
12月号



Mini-WAN

～三河港湾事務所より～

国土交通省
三河港湾事務所発行(№53)



Mini-WANとは

港や海に関連する新鮮な話題を中心に、地元の皆さんとのつながりを大切にする広報誌です。

☆CONTENTS☆

■最近のトピックス

- 第19回芳川渡し場まつりが開催されました
- 三遠南信サミットが開催されました
- JICA研修
- お知らせ
- 三河港振興会より 三河港ポートセールスミッション団を韓国へ派遣しました
- 衣浦みなとまちづくりフォーラムがひらかれました
- 遙かなる衣ヶ浦のみなど～藤井達吉美術館(碧南市)～
- みなとオアシス全国協議会が神戸で開催されました ○秋の530運動
- 第2回三河港・衣浦港 地震・津波対策検討会議が開催されました

■編集後記



☆最近のトピックス☆

○第19回芳川渡し場まつりが開催されました

10月23日、渡し場かもめ会主催で、高浜市芳川町の衣浦港湾岸に位置する老人ホーム高浜市安立(あんりゅう)荘にて「第19回芳川渡し場まつり」が開催されました。

開会挨拶の中で、渡し場かもめ会中川会長が、「去る7月20日海の日を記念し、国土交通大臣より、※ 藤江の渡しを後世に伝えるため祭りを開き、また、長年にわたって海をきれいにしてきた活動が評価され、表彰を受けるに至りました。」と大臣表彰受賞の報告をし、お披露目式において三河港湾事務所長より、表彰状と盾が手渡されました。

まつりは、吉浜小学校生徒による金管バンド演奏で幕を開け、「海の標語」の表彰、和太鼓や大正琴の演奏など地元の方々による催し物が次々と繰り出されました。屋台では、焼きそば、豚汁、団子などが振舞われ、行列が絶えないほどの大盛況となりました。クライマックスでは「嫁入り舟」が行われ、2組の夫婦がそれぞれの舟に乗り、たくさんの拍手を受けながら海上を移動しました。また対岸の東浦側からも旗を振ってのエールが送られました。

皆さんとても楽しまれていましたので、今年参加できなかった方は来年ぜひ参加してみたいかがでしようか？

※かつて衣浦湾を挟んで高浜市と対岸の東浦町を結ぶ渡し舟、通称「藤江の渡し」が生活物流や人の往来の重要な交通機関として役割を果たしていました。「嫁入り舟」は昔、花嫁さんがこの渡し舟で尾張から三河へ、また三河から尾張へ正装で嫁入りしたものを再現したものです。



表彰される中川氏

まつりの名入りの帆

「海とみなとの相談窓口」全国共通フリーダイヤル



国土交通省中部地方整備局
三河港湾事務所

〒441-8075 愛知県豊橋市神野ふ頭町1番地1
TEL(0532)32-3251 FAX(0532)32-5049

衣浦港事務所

〒475-0831 愛知県半田市11号地2番地
TEL(0569)21-2311 FAX(0569)21-2312

WEB <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp>
E-mail info-mikawa@pa.cbr.mlit.go.jp

おーいに よくなれ みなと
0120-497-370

受付時間※/9:00～12:00と13:00～17:00(土・日・祝祭日を除く)

※一部の地域を除きます。



●全国どこからでも、この電話番号で最寄りの「海とみなとの相談窓口」につながります。

○三遠南信サミットが開催されました

10月24日、第19回三遠南信サミット2011 in 遠州が「三遠南信流域都市圏構築への挑戦～融合、新たなステージへ～」をテーマに開催されました。

三遠南信サミットとは、県境を越えた三遠南信地域を一体的に振興すべく、地域住民、大学・研究機関、経済界、行政が一堂に会し、それぞれの活動状況や今後の三遠南信地域の展望について、情報や意見を交換し、議論を行うものです。



冒頭の挨拶を行う浜松市長

全体会においては、芝浦工業大学大学院教授である谷口氏より「三遠南信の新ステージに向け」と題した基調講演がありました。その後の「道、技、風土、山・住」の4分科会においては、三遠南信地域連携ビジョンの重点プロジェクトについて、これまでの検証・評価及び今後の事業推進の方向性が議論されました。

報告会で行われたサミット宣言においては、広域的又は局地的に発生する災害に対応するための現実的な相互協力への取り組みことや、圏域の一体的な発展のために三遠南信自動車道の早期全線開通、リニア中央新幹線の早期開業といったインフラ整備に向けた地域一体となった提言活動の推進等が宣言されました。

○JICA 研修

10月26日、JICA（独立行政法人国際協力機構）の主催する平成23年度集団研修「港湾戦略運営」を受講している研修生（16カ国）19人が三河港を視察しました。

まず、フォルクスワーゲンにて、日本の中でも三河港を拠点としている旨等の講話を聞いた後、新車整備施設を見学しました。次に「三河港における国際自動車コンプレックス計画について」と題した三河港の概要及び自動車産業を中心とした戦略等について講義を聴いた後、ポートインフォメーションセンターカメリアの展望台から港全体を見学しました。講座中や施設見学中、また、展望台からみえる自然風景や、港の施設等についても、熱心に質問をしていました。



会場の様子

☆お知らせ☆



○三河港振興会よりご報告 三河港ポートセールスミッション団を韓国へ派遣しました



佐原豊橋市長

10月10～11日、三河港振興会は、三河港ポートセールスミッション団（団長：佐原光一豊橋市長）を韓国へ派遣し、三河港を利用する韓国船会社に対し、定期コンテナ航路の維持及び航路拡充を要請すると共に、最新の三河港を巡る情勢などに関する意見交換を行ないました。

三河港豊橋コンテナターミナルは平成10年11月に開設され、オープン以来、積極的なポートセールス活動の実施等により、年々着実に取扱を伸ばしてきています（平成22年には過去最高の39,229TEUを達成）。その中でも、日韓航路は全コンテナ取扱量の約8割を占めるなど、三河港にとって大変に重要な航路となっています。

今回のミッション団派遣は、お互いの信頼関係を構築するのみならず、各船会社トップから、今後も日韓航路を維持していくこと、更に充実させるための相互努力を惜しまないこと、将来的には建造中の新造船を活用したサービス拡大を検討していること等、各社の経営戦略の一端や方向性を知る上でも大変貴重な機会となりました。

三河港振興会では、常にアンテナを高く伸ばし、国際情勢に乗り遅れることなく、今後も港の振興に取り組んでいきたいと考えています。

○衣浦みなとまちづくりフォーラムがひらかれました

11月7日、美しい中部のみなとまちづくりフォーラム（発掘！衣浦港2011～歴史・文化・賑わいが調和するみなとまち～）がアイブラザ半田で開催されました。

このフォーラムは「みなと」を核として地域振興を図ろうとする利用者主体の「みなとまちづくり」を展開するための取り組みや、人の交流活性化や観光振興のための方策について、情報交換や議論を行うことにより、地元のみなとまちづくりを応援することを目的としています。

この中で、渡し場かもめ会(高浜市)の中川会長より、「物語をつむぐ」と題した渡し場かもめ会の活動報告がされました。中川会長は、渡し場かもめ会が行ってきた地道な活動を、歴史背景等を踏まえて講演され、講演終盤に披露された美しい歌声に対しては会場から拍手が湧き上がりました。



基調報告を行う渡し場かもめ会の中川会長

衣浦港にゆかりのある方々によるパネルディスカッションも行われ、主催者である榊原半田市長より「衣浦港における産業・観光の発展には地域が連携していくことが必要」と総括されました。

○遥かなる衣ヶ浦のみなと～藤井達吉美術館(碧南市)～



遥かなる衣ヶ浦のみなとー海運と産業の歴史展が1月24日から3月4日まで藤井達吉美術館(碧南市)で開催されます。現在の西三河・知多地域を支える衣浦港は、近代までの衣ヶ浦時代が基礎にありました。

本展では衣ヶ浦周辺の海運と産業の資料からみなとまち・へきんの源流を探ります。詳しくは以下HPをご覧ください。

<http://www.city.hekinan.aichi.jp/tatsukichimuseum/>



○みなとオアシス全国協議会が神戸で開催されました

11月1日、**※**みなとオアシス全国協議会(第3回みなとオアシス全国協議会総会・第8回みなとづくり研究会、主催：ウォーターフロント開発協会)が神戸波止場町TEN×TEN(兵庫庫)にて開催されました。

現在、各みなとオアシスでは、地元行政と住民が主体となって地域振興を図りながら、みなとの魅力創出と情報発信をしています。全国のみなとオアシスとの連携により、全国の港町の振興・発展を図ることを目的に開催されました。

開会序盤に行われたみなとオアシス全国協議会総会では、第1回みなとオアシスSea級グルメ全国大会in三原等の事業報告がされ、次回平成24年度の開催地が小名浜港(福島県いわき市)に決まりました。

続いて、キーノートスピーチと題し、溝畑観光庁長官が「観光によって内需を拡大して景気を回復する。経済成長が著しい新興国において増加するアジアの観光客を日本に呼び込む。みなとも観光の重要なツールである」旨熱く語られました。

全国のみなとオアシスを代表する活動発表の中で、「みなとオアシスがまごおり」は、バリアフリーポンツーンの整備によりパラリンピックの強化基地の場として利用されたり、花火大会やジャズフェスティバル等の開催から更なるイベント広場等の充実整備まで幅広く活動報告をされました。

翌12日には、みなとまちづくりマイスターである森田氏(神戸港振興協会振興部長)により、神戸港中突堤周辺、港内遊覧における案内が行われ、神戸港の歴史、阪神大震災からの復興等バラエティに富んだ解説がされました。

また、昨年八幡浜港に誕生した「港弁」の第二弾である「平清盛たこしゃぶちらし」が発表されました。今後、神戸にて積極的に展開していくということですので、今後の神戸の楽しみの一つにいかがでしょうか？



港弁第二弾「平清盛たこしゃぶちらし」

※「みなとオアシス」とは：市民参画による地域交流拠点を目指すもので、平成22年11月13日現在全国に57箇所所在しております。東海・東南海地震への対応が求められる中部地方においては、災害時の生活支援機能も目的に付加しております。

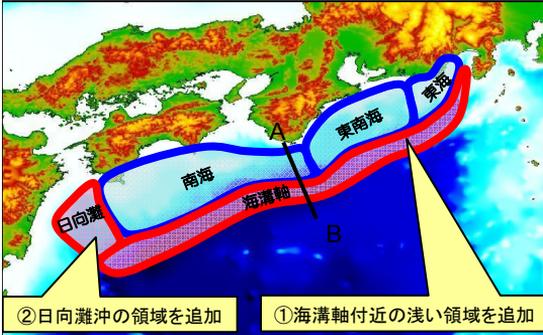
○秋の530運動

11月15日のお昼休みを利用し、当事務所ではゴミゼロ運動の一環として、事務所周辺や付近の公園の清掃活動を行いました。毎年のことながら、たくさんのごみが回収されました。道路には、トラックなどから落ちた金属くず、公園では、空き缶やペットボトル、紙くずなど、訪れる人が持ち帰らず散乱してしまっているごみが多くあり、回を重ねても、なかなかごみは減っていないことを感じました。私達も、日頃から出来るだけごみを出さないことを心掛けながら、530発祥の地にふさわしい美しいまちになるように、活動を続けていきます。



集められたゴミ

○第2回三河港・衣浦港 地震・津波対策検討会議が開催されました



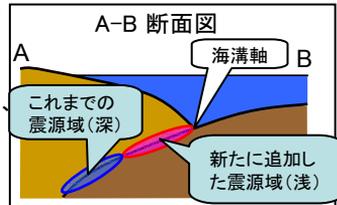
11月に当事務所管内の港湾を対象に、第2回の地震・津波対策検討会議を開催しました。25日には、名豊ビルにて豊橋技術科学大学の青木伸一教授を座長に三河港の、29日には、衣浦港湾会館にて名古屋大学大学院の水谷法美教授を座長に衣浦港の会議をそれぞれ開きました。

今回は、各港湾の新たな津波シミュレーションの結果も踏まえて作成した、地震・津波対策の基本方針案を提示したうえで議論していただきました。今回のシミュレーションは、これまで捕捉してきた東海・東南海・南海地震の深部の

震源域に、海溝軸付近の浅い震源域と日向灘沖の震源域を加え、それぞれが時間差をもって発生するものとして実施しました。

今後開催予定である第3回での議論を経て、発生頻度が高い津波、あるいは発生頻度は極めて低いが影響が甚大な最大クラスの津波に対して、人命・財産を守る「防災」、最低限、人命を守り、被害をできるだけ小さくする「減災」を目標とした基本方針を策定していきます。詳しくはこちらをご覧ください。

<http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp/topics/jisintunamikaigi.html>



★観望後記★

今年は立冬も過ぎ11月も半ばでも暖かい日が続きますが、暦の上では季節は冬です。



1ヶ月もすれば1年で昼間の時間が最も短い冬至ですが、日の入り時間が早いのは12月上旬です。この頃、西の空には宵の明星(金星)が、東の空には木星が輝いています。冬の空は空気が澄み綺麗です。



昨年は小惑星探査機「はやぶさ」が話題になりましたが、今年の冬は節電により街の灯りが少しでも無くなれば、普段見られない星空が見れるかも分かりません。12月はふたご座流星群の出現ピークを迎え、条件が整えば普段より多くの流れ星が見れますので、平年に比べ暖かいとはいえ季節は冬ですから、風邪に罹らない様に気をつけ、東日本の早期の復興を願いつつ冬の夜空を見上げてみては如何でしょう。

これまで郵送により紙面“Mini-WAN”を提供させていただいておりました読者の皆様には誠に勝手ながら、当事務所の都合により、今後は当事務所ホームページ上での掲載(pdf版)のみとさせていただきます。

三河港湾事務所ホームページはこちら <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp>